

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1293000038	
法人名	株式会社 オールプロジェクト	
事業所名	グループホーム ふくふく	
所在地	千葉県君津市貞元495番地	
自己評価作成日	平成25年3月26日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム	
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8	
訪問調査日	平成25年3月31日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者様が今まで生きて来られた人生への思いや、生活リズムを大切に、健康で笑顔のある日々が続く様な支援を心掛けています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「グループホームふくふく」は周囲には水田が広がり、敷地内には和風庭園も配置されており、豊かな自然に囲まれた施設である。隣接のデイサービスセンターとは日頃から交流が盛んに行われており、ボランティアの催し物への招待・岩風呂や露天風呂の利用・利用者との馴染みの関係構築等、入居者の生活活性化や相互の連携を図っている。法人が運営する同敷地内のデイサービスセンターや介護老人福祉施設をはじめ、近隣の介護サービス事業所とは多様なニーズに合わせたサービスが迅速・的確に提供できる様、協力体制を整えている。また、法人主催の内部研修も充実しており、計画に基づいた職員の人材育成にも積極的に取り組んでいる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の全体ミーティング時に社内の理念・基本方針の読みあわせを行っている。	法人の理念を掲げ、事業所内に掲示すると共に、研修や会議にて全職員への理念の周知を図り、理念に基づいたサービス提供が行われている。毎月、事業目標を掲げており、具体的なサービスの実践に向けた意見の統一に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会への加入を希望しているが、先方の都合により加入に至っていない。但し地域の行事や活動には毎回必ず複数の職員が参加している。	日頃の散歩・地域行事への参加・ボランティアの受け入れ等、地域住民との交流活性化が図られている。また、幼稚園児との交流・高校生の職場体験の受け入れ・研修の開催等、世代間交流にも積極的に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	君津市生活介護支援サポーター養成事業の受託に始まり、認知症キャラバンメイト講師・認知症メモリーウォークに協力している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動内容やホームの状況などを報告。意見やアドバイスを頂きサービス(資質)向上に努めている。	3ヶ月に1回、市職員・民生委員・入居者・家族・職員等を構成員として運営推進会議を開催している。会議では、施設の活動報告や意見・情報交換等を行い、施設の理解促進に努めると共に、挙げた意見・要望は全職員で検討し、サービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席して頂きホームの実情をお伝えしながら意見交換を行い、サービスの向上に努めている。	日頃から施設運営全般に関わる相談や報告等が行われていると共に、運営推進会議時には市職員との意見交換・情報交換等が行われており、市との協力関係が構築されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体ミーティングなどを通じ、身体拘束をせずに済む介護について理解を深めている。廊下と玄関の境はまだ施錠している状態だが、職員より施錠しない時間を作ってみたいとの意見もあり少しずつではあるが試みている。	身体拘束排除における施設方針やマニュアルを整備し、施設内に掲示すると共に、内部研修も実施されており、職員全員が身体拘束排除における意義を理解している。定期的に勉強会を実施しており、事例に基づいた指導や理解浸透を図り、身体拘束をしないケアを目指している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や全体ミーティングなどを通じて虐待防止に理解を深め実践している。(年間研修プログラムに組み込まれている)		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間研修プログラムに組み込まれているので管理者・職員共に勉強し理解を深め、必要なお客様に支援できるよう努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書の説明を行い、その場で不安や疑問点を尋ねてお答えしご理解いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本社・ホーム共に窓口を設けている。管理者が不在時は職員が対応し管理者に報告することを徹底している。	苦情・相談窓口の設置・家族の面会時・電話連絡時等、家族から直接意見や要望を確認している。また、運営推進会議も意見・要望の確認の場として活用している。挙げた意見や要望は会議にて職員全員に周知を図ると共に、問題の早期解決に努め、サービスの向上に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、全体ミーティングを行い意見を言える機会を設けている。	定期的に会議を開催し、職員の意見・提案・要望等の確認を行っている。管理者が日頃から職員とコミュニケーションを図り、意見・要望・思い等を言い易いような職場環境作りを心掛けている。外部研修への参加や定期的に内部研修等が実施されており、計画に基づいた人材育成にも取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	こまめにホームに来訪し、職員個々の意見を聞く機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時の研修を始め、社内外の研修等で育成を図ると共に現場での取り組みを重視している。また資格取得を積極的に勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	賀詞交歓会に参加し交流の機会を作ったり毎月開催される、さつき台病院の細井先生（認知症専門医）の事例検討会に参加している。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に施設内を見学して頂いたりご自宅に伺い本人（ご家族）から話を聞いたり、ケアマネジャーからの情報を活かし信頼関係が築けるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時や自宅に伺った際、ご家庭での過ごし方や習慣を伺うと共に不安や要望を聞いたりケアマネジャーからの情報を活かし関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人や家族の状況を把握し出来る限り本人に合った支援が出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の家事やレクリエーション・祭事について教えて頂いたり一緒に行うなど共に楽しむ機会を作ったり、行事や外食の内容を利用者主導で決めていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の情報を共有出来るよう毎月、手紙で状況報告を行ったり電話で相談させて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の制限は特に無く、馴染みの方の面会が続けられるよう支援している。	地域の店への買い物や地域行事への参加等、馴染みの場所への外出支援を行っている。また、友人や隣接のデイサービスの利用者との交流も積極的に行っており、馴染みの人との関係継続も支援している。家族との外出・外泊は自由となっていると共に、施設行事への招待も行われており、家族との関係継続も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士、相手を気遣う素振りが見られるので良い関係が継続できるよう職員が時には間に入り支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要とする利用者やご家族に対しては、これまでのお付き合いを大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限り本人の意見を聞いたり意向を汲み取りご本人主体の援助が出来るよう努力している。	契約時に、本人や家族から意向・身体状況・生活歴等を確認し、記録している。必要に応じて、医師や他の介護サービス事業所から情報提供を受ける等、より詳しい情報の把握に努めている。入居後は、入居者とコミュニケーションを図り、意向を把握する事に努め、本人本位の生活支援が行えるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に自宅訪問し聞き取りを行い、またご家族にもこれまでの暮らしについてご記入いただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録や申送りを行い、またミーティング等で意見交換し現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ヘルパー・ユニットリーダー・ケアマネジャー・管理者・ご家族・本人がケア計画について意見を出し合い作成している。	本人・家族の意向を確認し、職員会議にて意見・情報交換を行い、介護計画を作成している。定期的に介護計画の評価や目標の達成状況の確認を行うと共に、必要に応じて計画を見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。日常的に支援内容と生活記録等との統合性を図り、職員間で情報を共有し、入居者一人ひとりに即したサービスの提供に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個人記録に記入し、申送りを確実に行情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	突発的なニーズであっても可能な限り対応できるよう心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市内の子育て支援センターへ時々訪れふれ合う機会を設けたり、希望者には施設外的美容院まで送迎し付き添う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望に沿ったかかりつけ医があり定期的な往診を行うと共に突発的な場合でもスムーズな対応が出来るよう支援している。(医師・薬剤師とも24時間オンラインで対応)	協力病院以外にも希望のかかりつけ医への受診が可能となっており、必要に応じて職員による通院の付き添い支援も行っている。定期的に内科医の往診も実施されており、適切な医療支援が行われている。常勤の看護師職員による健康管理・服薬管理が行われていると共に、薬剤師や併設のデイサービスの看護師との連携も図っており、緊急時・急変時における迅速で適切な対応ができるよう取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員として看護師が配置されているため利用者のちょっとした変化にも直ぐ対応がとれる。看護師が不在時には併設のデイサービスや特養に連絡をとり対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時に一緒に伺い情報交換を行っている。また、退院時には看護サマリーを頂き入院時の状況把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の思いを尊重し可能な限りの支援を行い、必要に応じてかかりつけ医も含めた話し合いのもと方針を決定するよう努めている。	契約時に本人・家族の意向を確認すると共に、施設方針を説明し了承も得ている。重度化した場合や終末期においては、家族の意向を再確認し、職員・看護師・医療機関と連携を図る等、安心して納得が得られるような協力体制の整備に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルがあり全職員に周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方々との共同訓練や夜間の訓練まで至っておらず、今後の課題となっている。	非常災害時におけるマニュアルを整備していると共に、火災報知機・自動通報器・消火器・スプリンクラー等も設置されており、非常災害時に備えている。年2回、消防署の協力のもと、消防避難訓練を実施している。訓練では適切な避難方法や対応方法の確認・アドバイスを受ける等、入居者の安全確保に取り組んでいる。他に、備蓄品の再検討や隣接する同法人の施設との協力体制の構築にも取り組んでいる。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保(特に入浴や排泄)に気を配り不快な思いをしないよう努めたり、声の掛け方にも配慮している。	会議や研修等でプライバシー保護や接遇マナーの指導が行われていると共に、明文化し、施設内に掲示する等、入居者への尊厳守の徹底に取り組んでいる。全職員は入居者一人ひとりの言葉掛けや介助方法を工夫し、入居者のプライバシーに配慮しながら、サービスの提供に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の言動や表情から思いを汲み取れるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせて希望に添った支援が出来るよう日々努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には本人の意思を尊重しているが、意思の表現が困難な場合には必要に応じて支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には野菜を切ったり盛り付けを手伝って頂いている。また、後片付けを一緒に回ったり毎食一緒に食事を摂っている。	入居者の希望や能力に応じて、食事の準備や片付け等を職員と共同で行っている。管理栄養士による献立表を参考にしながら委託業者から食材を購入しており、栄養バランスに富んだ美味しい食事の提供がなされている。また、誕生会・外食会・手作りおやつ等を実施し、一人ひとりの希望や身体状況に配慮する等、食に対する様々な楽しみを支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作成したメニューに添って調理している。また、その方に合わせた形態で摂取しやすい工夫を行っている。毎食、摂取量のチェックも行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けにて口腔ケアを促し必要に応じて介助やチェックをおこなっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要に応じて声掛けやトイレ誘導を行い、極力トイレでの排泄を目指している。排泄のパターンを把握できるよう排泄表を用いている。	排泄チェックリストを活用しながら個々の排泄パターンを把握に努め、適切な支援が行われている。また、声掛けや誘導の仕方を工夫し、入居者のプライバシーに配慮しながら排泄の自立に向けた支援を行っている。必要に応じて、医師・看護師・薬剤師と連携を取りながら、適切な排泄習慣の確保に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを毎日行い必要に応じて、かかりつけ医に相談しその方に合った方法で便秘の予防に努めたり体操を日課にし体を動かしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日の入浴が原則となっているが、その方の希望や体調に応じ対応。入浴表をつけ、拒否が多い方でも極力間が空かないように対応している。	入浴は毎日実施しており、入居者の希望や体調に応じて回数・時間等、柔軟に対応している。施設内にはリフト浴槽の設備が整っていると共に、隣接のデーサービスの岩風呂や露天風呂の利用も可能で、入居者の希望や身体状況に応じて快適な入浴が出来るような支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活パターンや身体状況に合わせ本人のペースで休息が出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師によるアドバイスや指導を受けたり相談にのって頂いている。また、内服の一覧表が個々にあり全職員が把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に楽しみや生活面での役割があり、気分転換が図れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所を散歩したり直売所へ買い物に出掛けしている季節ごとに概ね月1回外出行事を行い、気分転換が図れるよう支援している。	入居者の希望・体調・天候に応じて、散歩・買い物・ドライブ等の外出を支援していると共に、庭を活用した散策・日光浴・ガーデニング等も実施しており、気軽に戸外の空気に触れられるよう工夫している。また、隣接のデイサービス・幼稚園との交流等、外部の人達との交流を活発に行い、入居者の生活活性化を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は、トラブル防止のため事務所で一括して行っているが本人の希望に応じて使えるよう支援している。		

【千葉県】グループホーム ふくふく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に添って随時支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や湿度、音、光に配慮したり季節の花木を飾ったり外出時の思い出(写真)を掲示し、居心地よく楽しく過ごしていただけるよう努めている。	施設は和風の造りとなっており、ユニット別に1・2階に分かれている。エレベーターが設置されていると共に、全館バリアフリーとなっており、十分な介助スペースが確保され、身体状況に配慮された環境となっている。リビングにはソファ・テーブル・和室スペースが設置されており、入居者が思い思いにくつろぐことが可能で、居心地の良い空間となっている。1階にはウッドデッキが設置されており、自由に外の空気に触れることが出来ると共に、隣接のデイサービスの行き来も気軽に出来るような造りとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室・和室・ソファ・ウッドデッキなど自由に利用できるスペースを設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具類は持ち込み自由で使い慣れた物を持って来て頂いたり、必要に応じてご家族に用意していただいている。	入居者・家族の要望に応じて馴染みの品々を自由に持ち込む事が可能で、入居者が居心地良く生活できるよう配慮している。一人ひとりの好みや生活スタイルに合わせた、その人らしい居室作りがなされている。各居室には鍵が設置されており、プライバシーに配慮していると共に、エアコンが設置されており、適切な空調管理が行われている	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「できること」「わかること」を把握し、安全でより自立した生活が送れるよう支援している。		